

記入年月日 平成26年3月31日

事業名	地域の見守り実態調査及び啓発事業(いきいき協働事業)
団体名	NPO法人 ふれあいアカデミー
担当課名	高齢者福祉課
事業期間	平成25年 4月 7日～平成26年 3月31日

<いきいき協働事業の自己評価>**①地域の課題が解決されたか** (計画時に設定した課題がどの程度解決されたか、対象者がどう変わったか)

当事業は、これから急速に進む高齢化社会の中で重要な課題であるとの認識からの取り組みであり、地域の核となっている自治会・町内会の取り組みへの実態調査と啓発事業である。

自治会長アンケートによる実態調査では、自治会・町内会の日頃からの悩みと共に今後に向けた多くの課題が提起された。内容は即解決に結びつくような事柄ではないが、課題解決に向けた行政との共通認識が持てたことは評価すべきである。啓発事業は「市民フォーラム」テーマ“地域で「孤立化」しないまちづくりを目指して”講師・立川市大山団地自治会長佐藤良子さんの講演は、別途「活動報告書」に記載のとおり多くの市民から共感を得ることができた。

②自らの団体の長所が発揮できたか (市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない成果が得られたか、市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開できたか)

当NPOは地域社会の人づくり、仕事づくり、まちづくりを目的に定年後のセカンドライフ支援を目的に2001年に設立された市民活動団体である。事業はシニア向け「ふれあい講座」「市民フォーラム」(年1回実施・今回は9回目)及び生涯学習支援が主な事業で、事業内容は今回の活動内容とほぼ同質であることから十分な活動できたと思っている。

③協働の姿勢が図られたか (互いの組織としての理念・使命や組織運営の考え方など相互理解が図られたか、対等関係維持のために適切な協議や意見交換の機会を設けたか、相手方と十分な情報共有が図られたか)

担当課及び市民協働と連絡を密に取り合って協議を行い、問題点を共有しながら進めることができた。情報及び資料の提供、アンケートの回収、諸連絡などの協力もあり協働事業としての環境もでき、計画を遂行することができた。

④改善提案

市民目線での協働事業の取り組みは初めての経験であり戸惑いもあったが、お互いに立場を理解し合った結果、計画を全うすること出来た。今後は問題点を共有した上で各々の立場から改善意見交換ができる場と時間があればと思う。

自由記載欄

この様な協働事業が一過性で終わることなく、次の協働事業に展開できるシステムがあれば、更なる前進に連なるのではないかと思う。

記入年月日 平成26年3月31日

事業名	地域の見守り実態調査及び啓発事業(いきいき協働事業)
団体名	NPO法人 ふれあいアカデミー
担当課名	高齢者福祉課
事業期間	平成25年4月7日～平成26年3月31日

<いきいき協働事業の自己評価>**①地域の課題が解決されたか(計画時に設定した課題がどの程度解決されたか、対象者がどう変わったか)**

多数の自治会によるアンケートの協力もあり、市内の実態が明らかになった。アンケートの結果は、調査報告書としてまとまっているため、今後の活用も期待ができるものである。

また、市民フォーラムには多数の参加者があり、今回のテーマに関して市民へ広く啓発できたため、当初の目標は達成できたものとする。

②団体の長所を発揮させることができたか(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られたか、市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができたか)

市は資料の提供や関係機関との調整、広報活動などの役割を担い、団体が活動しやすいように努めた。団体においては市民フォーラムを毎年開催されていることもあり、企画・運営において団体の長所が非常に活かされていた。その結果、フォーラムの参加者は100名近くとなり、参加者アンケートでも高評価を得られた。

③協働の姿勢が図られたか(互いの組織としての理念・使命や組織運営の考え方など相互理解が図られたか、対等関係維持のために適切な協議や意見交換の機会を設けたか、相手方と十分な情報共有が図られたか)

連絡を頻繁に取り合い、情報の共有を図った。また、お互いの役割、考えを尊重し、可能な限り、協力ができるように努めることで、信頼関係を築くことができた。

④改善提案

いきいき協働事業は単年度事業であるため、扱うテーマによって向き不向きがあるのではないかと感じた。

自由記載欄

平成25年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	地域の見守り実態調査及び啓発事業
団体名	NPO法人 ふれあいアカデミー
担当課名	高齢者福祉課

①目的の共有（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・事業提案後から綿密に協議や意見交換を重ね、事業目的を共有しながら実施することができた。	

②自主・自立の尊重（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：概ね達成できた
・それぞれの立場の違い、考え方の違いを理解し尊重したうえで、団体の専門性及び経験を活かすために自主・自立した環境を整えながら事業を進めた。	

③相互理解（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、柔軟な対応が図られたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・事業実施にあたっては、十分なくらい協議や意見交換を重ね進めてきたため、突発的な問題が生じても双方で解決策を模索し、柔軟な対応を図ることができた。	

④対等関係（互いの事業活動における対等な立場を踏まえ、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け一方的に決めることなく十分に話し合ったか）

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：達成できた
・団体と市との立場の違いや考え方、方法の違いを認識し合いながら協議及び意見交換の場に臨んでいたため、対等な立場で事業を展開することができた。	

⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・状況や進行状況に応じて、定期的に顔を突き合わせる形で情報共有を図ってきたため、細かい部分まで共有することができた。	

⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> ・団体の専門性や地域のネットワーク、市の関係機関等との調整力など、それぞれの長所や立場を活かせるような役割分担を定めることができた。 ・地域活性化モデル地域の選定に時間を要し、その後の進行に影響が生じてしまったため、事前にある程度役割分担を明確化し、調整する必要があった。 	

⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none">アンケートの対象者として自治会を選定していたが、団体の単独実施では調査することが困難であったが、市との協働により実施したため、回収率にも好影響があり効果的に実施することができた。フォーラムの開催にあたっては、団体との協働により市民の視点を取り込むことで、講師及びパネリストの選定など市単独ではできなかった構成内容で展開することができた。	

⑧目標の達成（事業の目的が達成できたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none">当事業を通じて、地域の孤立化実態把握を行い、その調査結果に基づき孤立化を防ぐための地域での見守りに関する啓発や検討を行うことができた。特に、フォーラムでは、市民の関心度の高いテーマを設定することで、集客も効果的に行い広く市民に啓発することができた。	

⑨地域の課題解決（事業を通じて地域の課題解決につながったか）

団体自己評価：概ね達成できた	担当課自己評価：達成できた
<ul style="list-style-type: none">アンケートやヒアリングを通じて、地域の孤立化の現状や課題などを把握したことで、その課題に即応した市民の関心が高いテーマでフォーラムを開催することができた。今後は、自治会の加入率の向上に向け、市民に自治会の活動内容を広くわかりやすく周知することが重要であると感じた。	

⑩その他意見（提案団体から）

<ul style="list-style-type: none">団体単独で実施できなかった、アンケートやヒアリングを通じて、地域の現状を把握することができたことは、非常に有意義であった。今後、当事業で把握した地域の課題とどのように向き合い、どのように解決していくかが重要であると認識した。当事業で作成した報告書を有効活用するとともに、この経験をステップに次の活動に活かしていきたい。地域包括支援センターへのヒアリングやフォーラムを通して、業務内容や活動状況等を改めて知ることができ、その必要性を認識した。	
---	--

※自己評価項目

1	十分達成できた
2	達成できた
3	概ね達成できた
4	目標を下回った
5	達成できなかった